

大阪有機化学工業株式会社	
2021年11月期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2022年1月13日(木) 13:00~14:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2021年11月期 決算説明会資料」(2022年1月12日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	2021年度の電子材料事業の中で、半導体材料の伸び率は? 2022年度に成長のけん引役となるのはどの事業か?
A-1	2021年度の半導体材料の伸び率は、前年比で約13%でした。2020年度は前年比30%ほど伸びましたので若干下がっているようにも見えますが、着実に成長しています。2022年度も電子材料と機能化学品の特殊溶剤が売上をけん引するとみています。
Q-2	2022年度の半導体材料の需要見通しは? ロジック・メモリに分けた見通しは?
A-2	サブセグメントの予想は開示していませんが、概ね今年と同程度の成長を見込んでいます。昨年、市場としては、最先端のロジックで10%、メモリで17%程度伸びていて、それに伴いArFの材料も伸びています。この傾向はあまり鈍化しないとみています。また、EUVの材料は、数量はまだ少ないですが、年率50%くらいで伸びていくと考えています。
Q-3	化学増幅型と、メタル系レジストのすみ分けについてどう見ているか?
A-3	それぞれ長所がありますが、化学増幅型はこれまでの延長なので、改良型で展開できると思います。ただし、エッチング耐性などでは、メタルレジストのほうが優れているので注目されているのかと思います。いずれにしても、ベース樹脂にアクリル系の添加剤が使われれば、当社の材料が使っただけと思っています。
Q-4	化成品事業の中の、高純度品の伸び率は?また、機能化学品事業の中の特殊溶剤の伸び率は? さらに、ディスプレイ関連材料についての販売動向は?

A-4	<p>化成品の高純度品は、前年比 35%増。神港有機の特殊溶剤は概ね 1.5 倍となっています。2022 年度も増える方向でみています。</p> <p>ディスプレイ関連は前年比で約 10%伸びています。2022 年度は、上期に調整が入って 10%程度のマイナスとみていますが、下期で回復すると予想しています。</p>
Q-5	利益について、原材料価格上昇のインパクトは？
A-5	<p>化成品事業の利益率が 3Q までで 8%程度でしたが、4Q で 6%台に落ちていて、このあたりが、原料価格高騰の影響とみています。</p> <p>ナフサ以外の要因の値上げも打診されており、価格転嫁が難しいことから、売上はあがるが、利益はあがりにくいという状況から、2022 年度の業績予想を出しています。</p>
Q-6	新設備の立ち上げコストの状況は？
A-6	<p>昨年、2Q で新設備の立ち上げコストが出ましたが、現在は順調に立ち上がってきていますので 2022 年度は影響はないとみています。</p>
Q-7	半導体材料の生産キャパシティーについて
A-7	<p>市場の成長以上に生産キャパシティーを増すように設備の増設を進めており、2024 年度までに 2019 年比 2.5 倍以上になるようを拡充する予定です。現在認定中のものもあり、すでに増設した設備の供給能力とあわせて、供給への不安はないとみています。計画をさらに前倒しできればよいのですが、特殊な機器の納入に長期間かかるので現状の計画が最善と考えています。</p>
Q-8	各セグメントの売上高予想で、新旧会計基準の差は何に起因するのか？
A-8	<p>新旧基準での売上高の差は、受託生産の支給原料費が影響しています。電子材料事業はほとんど自社製品ですが、化成品・機能化学品は受託の割合が高いので影響が出ています。</p>
Q-9	2021 年の 4Q で電子材料の利益が多く出た要因は？
A-9	<p>2Q ででていた認定ロスなどもなくなってきた、製造原価が下がり、製造効率が上がったことが要因とみています。また、原価率の低いキャンペーン生産の売上が 4Q にあがったことも要因の一つとみています。</p>
Q-10	説明会資料の図を見ると中期計画の売上高目標値が上方修正されたように見えるが？
A-10	<p>2024 年の売上高目標は旧会計基準で 370 億円以上のままで、今のところ上方修正はしていません。</p>
Q-11	2024 年までの計画で EUV はどの程度寄与するか？
A-11	<p>主力は ArF の材料で、EUV は現在電子材料うちの 2%くらい。今後ロジックのなかの 10~20%が EUV に置き換わるとみているので、将来的には電子材料の 10%くらいにしたいと考えています。</p>
Q-12	営業利益について、原材料費値上がりの影響は来期にどうなるか？

	また、セグメント間の強弱は？
A-12	2021年の2Qごろより原油・ナフサ価格が値上がりし、順次、製品に価格転嫁はしていますが、それ以上に原油価格が上昇してきたので、転嫁し切れていない部分もあり、影響は2022年にも若干残る見込みです。また、原油上昇以外の理由での値上げの情報もあり、それを2022年の業績予想に織り込んでいます。セグメントでは、化成品事業が最も影響を受ける見込みです。
Q-13	設備投資計画で、2022年から工事が開始する分について、昨年の資料では供給能力30%増に対して、今回の資料では60%増となっているのは？
A-13	来年以降の需要予測を考慮し、少しでも前倒しで供給能力を増やせるように計画を見直し、従来の30%増から60%増へ変更しています。

以上